

J R 東海 労 幹 関 西 地 「 申 」 第 3 1 号
2 0 1 5 年 1 月 1 4 日

東海旅客鉄道株式会社
新幹線鉄道事業本部関西支社
支社長 田中 守 殿

J R 東海 労働組合新幹線関西地方本部
執行委員長 小林 國博

「鳥飼車両基地の井戸掘削」に関する追加申し入れ

鳥飼車両基地の井戸掘削工事が昨年末より工事が中断し、昨日1月13日から再開している。

工事は安全にかつ慎重に行われるべきであると考えます。さらに地域住民、社員の安全や不安をしっかりと払拭していくことが必要である。よって、下記の通り申し入れるので早急に労使協議の場を設定すること。

記

1. 鳥飼車両基地内の井戸掘削に関する現在の工事の進捗状況を明らかにされたい。
2. 昨年末から工事を一時中断し、掘削した工事箇所（1箇所）に直径10cmほどの蓋がしてあり、1月13日から工事が再開している。蓋をしていた穴は試験掘りのために掘削したものなのか明らかにされたい。
3. 試験掘りの掘削工事ならば、掘削した深さ、試験した項目、内容、試験結果を全て明らかにされたい。
4. 農薬など汚染の影響を受けていない地下水は地下200メートル以上の深さが必要であると言われているが今回、汲み上げ予定の井戸の大きさや深さはどの程度の規模なのか明らかにされたい。
5. 仮に地下200メートル以下の井戸水ならば、どのような調査内容、使用可能との判断基準による判断なのか明らかにされたい。
6. 新設井戸と現行の給水設備（水槽）間の距離が約1km程あるが、新たな給水設備を設置する計画なのか明らかにされたい。
7. これまでの給水設備（水槽）は、廃棄することを考えているのか明らかにされたい。

8. 現在、営業列車に運用する列車へ給水している「水」は工業用水なのか上水なのか明らかにされたい。
9. 今回、井戸からくみ上げる地下水の活用法において井戸水と上水の二重系統を図っていきたいと説明しているが、現在、列車のトイレ・洗面所の給水には工業用水を使用した二重系統になっている。二重系統との回答は地下水と工業用水のことなのか明らかにされたい。
10. 周辺の地下水・地盤沈下のデータから計画による地盤沈下の恐れはないと判断しているが、集積したデータはどの範囲（計測場所）を何年の年数をかけて調査した数値なのか明らかにされたい。
11. 完成後もモニタリングをしていくとしているが、モニタリング地点は何か所あるのか。またその箇所を明らかにされたい。
12. 地下水質調査には環境基本法第16条に基づく調査が行われると思われるが、環境基準に定められている28項目の水質汚濁の項目・基本値が一つでも明らかになった場合は即、工事を中止し白紙撤回するべきである。会社の見解を明らかにされたい。
13. 環境省による地下水質調査の調査区分は地域を選定して行う「定点方式」ではなく、地域全体（市街地では1～2km、周辺地域では4～5km）の調査を行う「ローリング方式」での調査が適切であると考えている。会社の見解を明らかにされたい。
14. 「災害が発生して給水が絶えてしまったら輸送の確保が出来ない」と説明しているが、阪神淡路震災時に摂津市からの給水異常で上水が途絶えた事実があったのか明らかにされたい。
15. 現在の下水道使用量は何トン/日なのか。また毎月の茨木市、摂津市へ支払っている下水道の使用量と水道料金を明らかにされたい。
16. 井戸掘削工事の今後の具体的な予定を明らかにされたい。

以上